

山岳クラブ／ゲーテナーク(ドイツ語 こんにちは)

月報 やまふみ

No.215 2013年(平成25年)9月1日発行山踏み



鷲羽岳とお花畑

会 長 /MT
事務局長 /TK
ホームページ/<http://guten-nagano.com/>
編 集 / UR KK ST
印 刷 / 中央プリント株式会社

もくじ



山行報告(6/22~8/18)	1~13
来月担当者&編集後記	14

★6月22日(土)~7月17日(水) デナリ(マッキンリー) (個人山行)

┃ 藤 非会員4名

アラスカ在住で南極大陸を犬ぞりによる横断などで知られる F 氏、彼と北極点、南極点に行った経験のある九州在住のM氏(73 歳)、F 氏の友人で、デナリに精通しているガイドの El(35 歳)、アシスタントガイドの Ed(24 歳)、私(72 歳)の 5 人のメンバーでアラスカのデナリに入山した。

デナリは標高が 6194m でそれほど高い山ではないが、極地に近いために気温が低いうえに、登山シーズンのこの時期でも風雪の荒天が一週間以上続くことが普通で、体感温度は -50℃以下にもなるといわれ、雪崩の危険性もある。また、赤道に近いヒマラヤに比べ、気圧(酸素濃度)が低くヒマラヤの 8000m 峰に匹敵するといわれる。さらに、ベースキャンプから山頂まで 4000mを越える標高差があり、エベレストの同じ標高差より 500mも高い。登山ルートはヒドンクレバス(雪の下に隠れたクレバス)がある氷河の上を歩くために極めて危険である。アラスカにはヒマラヤなどのようなポーターがいない、もちろん、山小屋も無いので装備や食料は自分たちで運ばなければならない。そのようなことから、セブンサミットの中では最も困難な山の1つといわれ、年間の平均登頂率は 50%以下と言われる。

私は年齢的に体力にハンディがあり、そのうえ病気や怪我(半月板損傷)などで2年ほど大きな山から遠ざかっている。出発前にトレーニング、高度順応、そしてこの登山のために用意した 8000m 用トリプルブーツの履き慣らしを兼ねて、冬の蓼科山に3度、富士山に1度登り、少し自信を取り戻した。装備などについてはガイドから、必要な装備リストが届き、それに基づいて用意し、国内で入手できないものは現地で購入、またはレンタルすることにした。

『やまふみ』9月号

6月22日に成田を発ち、シアトル経由でアンカレッジに入り、24日にガイド達全員と合流、ガイドに持参した装備の確認をしてもらい、その後、市内の登山用具店に行き、105リッターのバックパック、ミトンなどを追加購入し、アセnder、ピッケル、スノーシューなどをレンタルした。

入山1日目(25日) アンカレッジより車でタルキートナへ移動、デナリ国立公園のレンジャーステーションに行き、入山登録と入山に際して遵守すべき事項の説明を受ける。その後、急いで登山姿に着替え、エアータクシー(小型飛行機)で出発、カルヒトナ氷河の支流に着陸し、直ちに5人でベースキャンプ(BC、2160m)を作る。

この夏は気温が高く、アンカレッジでも暑かったが、氷河も気温が上がってクレバスが危険なために、通常より200m程高い場所に飛行機はランディングし、その近くにBCを作った。デナリの巨大な山容に対して、フォーレーカー(5304m)ハンター(4442m)の三山が周りを取り囲んでいる。周囲の山から雪崩や落石が氷河に落ち込み、不気味な音が響く。EIが5mのゾンデ棒でクレバスの有無を確認し、安全な範囲のみで行動する。テントはM氏と私、他の3人、クックテントの3つを設営。この後、EIから、氷河登行、クレバスレスキュー、そりの扱い、ロープの扱い、キャンプサイトでの行動の仕方等のオリエンテーションを受ける。

2日目、3日目は雨交じりの風雪、BCで停滞。

4日目、零時に起床、朝食後、テントをたたみ、出発の準備をする。気温が高くクレバスが危険なため、気温の低い夜間に行動、この時期は白夜で夜間でも活動が出来た。

個人装備とテントをバックパックとそりに分けて積み込みキャンプ1(C1、2340m)を目指す。スノーシューを履き、ザイルは常に5人がタイトロープの状態移動する。この山での排泄は、レンジャーステーションで渡された直径25cmで高さが30cm程のプラスチック缶に特殊なビニール袋を入れて用をたし、クレバスに捨てることに決められている。出発時にEIが先頭に立ちそのビニール袋を捨てるためクレバスに近づいたが、ヒドンクレバスに腰まではまった。タイトロープをしているので事なきを得たが、彼がクレバスにはまったのは2006年以来という。暑さで氷河が緩んでいることと、ヒドンクレバスの恐ろしさを改めて感じた。

BCから氷河を下り、広大なカルヒトナ氷河に入って登り始める。標高差も少なく5時間ほどの行程だが慣れない荷物の重さと湿雪をスノーシューで歩く負担に疲れる。到着後C1を設営。



デナリ遠望



C2からデナリを望む



クレバスの脇を行く



氷河を登る

4日目、上部で使用する装備などをバックパックに詰め、約 3000mのカルヒトナパスヘデポのため3時半に出発。デポ地に到着後、深さ 2m程の穴を掘り、その中に荷物を入れた後、雪で埋め、標識を立て C1に戻る。

5日目、テントなど残りの装備を持って、昨日デポした場所を通り過ぎ、C2(3360m)へ移動、到着後、疲れた体でテントを設営。

6日目(30日)前々日、デポした地点まで下り、雪中から荷物を掘り出して、バックパックに詰め再び C2に戻る。この後、4日間、デナリ本来の風雪が続き C2にて停滞。時折、テントごと吹き飛ばされるのではと心配になるほどの強風で、避けるために雪ブロックを周辺に積む。クックテントで食事をしたり、お茶を飲んで雑談したり、他はシュラフに入って寝るのみ。

10日目、ようやく天気が回復、スノーシューからアイゼンに切り替え、C3を目指す。予定では 4115m付近にデポを設置し 3日間かけて移動することになっていたが、停滞した遅れを取り戻すべく、全ての装備を持って直接 C3(4260m)へ登ることになる。ガイドが我々のテントなど負担してくれたが、それでも20Kg以上のバックパックを背負って、厳しい雪の登り、巨大な岩のトラバースなど長くつらい行動。風が強く寒さが厳しい危険地帯の移動のため休息が取れず疲れる。途中、昨年日本のパーティーが雪崩に合い 4人が遭難した場所を通過、合掌。疲れきって、メディカルキャンプのあるキャンプ地に到着。直ちにテントを設営し倒れこむ。食欲が無くガイドが作ってくれたコーヒーを飲んで寝る。

11日目、風雪強く C3に停滞。この先、固定ロープが設置されたヘッドウォールと呼ばれる壁を登るため、晴れ間にアセンドャーを使ったトレーニングをする。

12日目、計画では C4の途中の 4920mの山稜ヘデポ設置であったが、残りの日程が少なくなったこと、天気予報から、このあと長期間の好天が望めないことなどから、最後のハイキャンプ(5240m)まで、デポ無しで一気に登ることになった。雪の斜面を 2時間ほど登り、固定ロープが設置されたヘッドウォールを、アセンドャーを使って登る。重い荷物と薄い空気が体力を消耗させ、この登攀に6時間を要した。ようやく壁を登り終え、休息をとる。この後、ハイキャンプを目指したが、歩行が思うように進まない。今日は、あと 4時間のナイフリッジの登りと固定ロープが張られた壁の登攀がある。もし、これを登りきる体力が無く、ハイキャンプまで辿り着けない場合は、最悪の事態が予想される。仮に辿り着いても、この先の好天の見込みが少ないため、明日は 12時間以上の時間をかけ、標高差 1000m以上の頂上まで一気にアタックを予定している。果たしてそこまでの体力があるだろうか。高度計は 5000mを超えていた。メンバーに相談しここで引き返すことにする。ガイドはなんとしても我々を山頂に立たせたいといろいろ努力してくれたが、私の意見に同意した。Elは「自分も頂上に立つまで 3回の登山を要した。今日、先行した他のパーティーには、アメリカ空軍の兵士 2名がいたが彼らはこの壁を登れず C3に戻った。70歳を越したゲストをここまでガイドできたことを光栄に思うよ」と慰めてくれた。



最高到達点で

今日は、あと 4時間のナイフリッジの登りと固定ロープが張られた壁の登攀がある。もし、これを登りきる体力が無く、ハイキャンプまで辿り着けない場合は、最悪の事態が予想される。仮に辿り着いても、この先の好天の見込みが少ないため、明日は 12時間以上の時間をかけ、標高差 1000m以上の頂上まで一気にアタックを予定している。果たしてそこまでの体力があるだろうか。高度計は 5000mを超えていた。メンバーに相談しここで引き返すことにする。ガイドはなんとしても我々を山頂に立たせたいといろいろ努力してくれたが、私の意見に同意した。Elは「自分も頂上に立つまで 3回の登山を要した。今日、先行した他のパーティーには、アメリカ空軍の兵士 2名がいたが彼らはこの壁を登れず C3に戻った。70歳を越したゲストをここまでガイドできたことを光栄に思うよ」と慰めてくれた。

下山を決めたあと、氷の壁を下りるのが危険で予想以上の時間を要し C3へ辿り着いたのが夜の 11時、今日は 12時間のアルバイトであった。2日前に登頂したロシアチームはこの壁を降りる途中で 1人が捻挫して歩行が出来なくなり、チームが協力してそりで下ろしていた。

この日、我々に先行してハイキャンプを目指したもう 1つのパーティーはその後、4日間荒天のためハイキャンプで動きがとれず下山している。結果的に我々が 5000mで登頂を断念したのが良い判断であった。

13日目、C3でほぼ 1日休養したあと、午後から下山を開始。この日は暖かい陽射しが降り注ぎ、素手でテントをたためるほど暖かであった。しかしこの時も山頂付近には雲が係り荒天の模様であった。下山を始めると途中から吹雪にかわり、夕暮れと共に辺りは完璧なホワイトアウトとなった。標識も無い氷河の上を Elの経験と

『やまふみ』9月号

感でクレバスを避けて歩いた。風雪がますます強くなり、夜 11 時、テントフライとスキーポールを使った簡易のテントを作り、5 時間ほど休息する。

風雪が少し弱まったのを見て 4 時半に出発、気温が上がったクレバス帯の下山となり、緊張しながら歩く。先頭の EI が、雪面にスキーポールを突き刺し、クレバスの有無を確認しながら進む。右へ左へとクレバスを避け、狭いクレバスは飛び越えて渡った。ベテランの EI も 2 度胸の辺りまでクレバスにはまったがタイトロープをしていて確保され、事なきを得る。我々が途中で追い抜いたロシア隊はクレバス帯を歩くことが出来ず引き返し、気温



迎えのエアータクシー到着

が下がって雪が締まるのを待って我々より2日遅れて下山した。

14 日目、飛行機のランディングポイントまで最後の氷河の登りがあり、全ての体力を使い切って朝の 11 時に BC の地点に到着。上空に雲が低くたち込めこの様子では、いつ迎えの飛行機が来るかわからない。仮りのテントを設営しその中に上半身だけ入れて休息する。2 時間ほど経過した時、突然、雲の下を飛び谷間に轟音を響かせて、迎えの飛行機が到着する。大急ぎで荷物を積み込み、機内に乗り込む。氷河を抱いた険しい山々を超え、アラスカの緑の大地に向かって飛んだ。

I 記

★7月 21日(日) 鈴ヶ沢東俣・例会山行

CL : S 谷 Y 本 H 岡 T 井 K 津 T 島

晴れ/曇り

林道(ゲート)8:15 入渓地点 9:00 二股(橋)10:13 30m 滝 10:30 大岩壁 14:23 16:30 道路 駐車場 16:32



んとは二股の橋で落ち合うことができた。何度来てもここは景色がすばらしい。

二股までは難しい滝もないが、そこからは何箇所かロープを出した。最初は4m滝で、T 島さん先行で登ってもらいロープをフィックスしてもらおう。

今回は田の原駐車場に車を回す事を考えたが、往復で50km約1時間30分のロスになる。メンバーはまだ不慣れなため遡行時間がかかると考え、T 島さん・K 津さんにデポをお願いし残りのメンバーは先に出発することにした。

前回は、二股から入渓したが今回は手前の橋から早めに入渓する。T 島さん・K 津さん



次は30mの大滝、ここもロープを出し高巻きをする。

ほとんどの滝に青いきれいな釜があり、とてもきれいだ。しかし7月末というのに曇り空、釜で泳いで見たが水が結構冷たく身体が震えだすほど。身体が冷えたためか、足がつってしまう。

次回は8月の暖かいときに思い切り泳いでみたいものである。本日3つ目の注意する場所は10mほどのトイ状の滝。

左岸を高巻くことも可能だが足場が悪い。今回は側壁にロープを張りトラバースした。



大岩壁に14時過ぎに到着。大休止とする。台風のためか倒木が多い。ここからは右側の尾根の高巻きであるが、早めに反対側の沢に下りすぎてしまった。ここは、尾根伝いに100mほど登り周りが熊笹になってから反対の沢に下りるべきである。2時間ほどで道路に出て終了。下りがない沢登りは快適であり癖になってしまいそうだ。

皆さんお疲れ様でした！（車をデポしていただいたK津さん・T島さんありがとうございました）

by S谷

★ 7月27日(土) 鶏冠谷左俣～三の沢（個人山行）

CL S谷 T島

行程 前夜泊 道の駅みなみ

6:00 西沢溪谷駐車 → 6:30 鶏冠谷入溪 → 9:30 三の沢出合 → 11:45 稜線(2050m付近) → 12:40 鶏冠山頂上 → 16:00 西沢溪谷駐車場

私の今年の沢は、先週の鈴が沢からスタートと、出だしが少し遅かった。そして今日で2回目。この沢はまだ一度も行ったことがなく、リーダーの希望で決まった。が、振り返ってみて、どこか特別に難しい箇所があったのか…思い出されないほど、淡々とした沢だった。そして、このナメはよく滑る。傾斜の緩いところで、本来なら普通に登れるところであっても、ズルズルと落ちていく。右俣に比べて、明るい沢と書いてあったが、結構薄暗いぞ。というのが感想である。

さて、鶏冠を入溪して、小さい滝を幾つか登る。逆の



字滝は、水量も少なく、すんなり登った。逆くの曲がり角に残置ハーケン1本みつける。水量が多い時には必要となるのでしょう。2時間遡行し、三の沢に出会う。ここまで間違えることはないが、一応、一の沢と二の沢の分岐を確認していった方がいいと思う。三の沢の登り口には、5段50mの滝がある。本の説明通りに、3段まで水流を上る。4.5段は右端と書いてあるが、水量が少ないこともあり、直登できた。これでメイン？は終わる。後は小滝を楽しみ、徐々に水量が減り、ガレ場となっていく。ガレ場の傾斜はきつく、足場も崩れやすい。そこを詰めていくと、ガレ場も終わり、しゃくなげの藪に突入。しかし、数分で抜け、稜線へとでて、鶏冠の沢は終了となる。後は下山のみであるが、ここからが悪い。核心である。

下山路はわかりにくい。途中何度か道を間違えた。あまりに急な斜面に出くわし、間違えたと気づき、登り返す。



赤いテープが所々に明示してあるが、この登山路を登りで使う人はいても、下りで使うのは、沢を登ったイレギュラーな人達だけであろう。なので、赤いテープは、登りで間違えないような場所に明示してあり、下りではわかりにくくなっている。また鶏冠山頂上付近は岩場が多く、5.7~5.8程度の岩を、鎖を使って降りるところが多く、怖いこと。の割には、登ったり降りたりで、2時間近く歩いても高度があまり下がらない。

15時過ぎ頃から雷がゴロゴロと鳴り始める。16時に駐車場に到着した頃から、少しポツポツと雨が降り始めた。後片付けをして、車に乗った本の後から雨が強くなり、ゲリラ豪雨となった。お風呂に入る時は雨足も弱かったのが助かったが、お風呂から出て帰る時には、再びゲリラ豪雨となり、車まで20m程であっても行くことができず、1時間近く足止めをくらった。それでも止みそうもなく、意を決して雨の中を突入となった。この日は、東京の隅田川の花火大会もあり、この豪雨で中止となったという日であった。沢はすんなり登ったが、下山と雨に振り回された日であった。

T島 記

★8月3日(土) 西ゼン・平標山沢登り(個人山行)

メンバー T島 S谷 K津 Y本

行程

8月2日 前泊(湯沢町)

8月3日 林道終点 6:40 平標新道登山口(群大ヒュッテ) 7:00 西ゼン入溪 8:15 東ゼン出合 9:50

第1スラブ下 10:00~上 11:40 第2スラブ下 11:50~上 13:10 二俣(1600m) 14:30

稜線(1900m) 16:00 平標山 16:30~17:00 元橋(平標山登山口) 19:30

天気:曇り一時小雨

8月2日(金)

23時30分就寝の準備と寝酒用缶ビール飲みを終え寝る体制を整えるとエンジン音、K津さんが到着。

「一杯やりませんか？」の聲に小宴会。

8月3日(土)

釜の沢東俣、鈴ヶ沢東俣に続き3度目となった今回の沢登り、ヤマレコを見て高度差の有るスラブに不安があったものの「な



んとかしましよ。」の声に甘えて参加。

三国街道沿いの平標山登山口に車1台をデポし土樽に向かう。平標新道登山道に通じる毛渡沢沿いの林道進みゲート前の広場に着くと既に2台駐車有り。

ゲートから林道を歩いて行くと後ろから大宮ナンバーの車が通過。群大仙ノ倉山荘前の橋を渡り登山道に入る。前日の雨の影響か登山道を横切る小さな流れが所々に有り。入渓予定地点手前の沢の水量が多く、そこで沢装備を整えることにし、道標を兼ねた慰霊碑の有るところから入渓。ゴーロ歩きを始めて暫くすると、木津さんが靴のフェルトが一部剥がれていることを発見。靴紐とテープで補修。途中GPSで位置確認をすると一本違う沢にいる表示。T島さんの持っている地図とGPSの沢名表示が異なる事を発見し、現在地が正しいことを確認。



ナメは、水量が多いためか乾いた所が少なく滑らないように慎重に歩く。小さな滝等急な岩場ではスリングの補助を得ながら進む。次のステップまで足を上げられないでいると「手で上げたら。」のアドバイス、手を添えると足が届く、こんな方法も有るのかと納得。一部晴れ間が見え「今日は泳げるかも。」と期待するも声も有ったが暫くすると頭上に雨雲、行く手には霧。やがて厚さが2m以上の大きな雪塊が出現、幸い沢全面を覆っていなかったが、雪塊横の泥壁登りは滑り易くバイルの必要性を体感。



予定の時間より大幅に遅れて第1スラブに到着、ここからはザイルを常用して進む。黒色のコケでも滑る所と滑らない所が有り不思議。第2スラブは、第1より岩肌が粗いため歩き易かったが両スラブとも高度感が有り、ザイルのお陰で足を進めることができた。大きな3段の滝の河床に一株のニッコウキスゲが咲いていたのが印象的。途中気温が下がって来たためアンダーを2枚追加。

第2スラブの後も滝が沢山有りビレーしてもらいながら進み二俣に着く。沢から出て藪こぎの開始、クマザサなので比較的楽と聞いていたが、背丈ほどに伸びた笹と急登により体力が急速に消耗、足も上がりにくくなる。最後はザイルで引き上げてもらいながらやっと背の低い笹の所に出て平標新道と合流し山頂に向かう。



平標山頂で沢装備を外し、松手山コースを下山開始。途中のお花畑には、ハクサンフロウ、シモツケソウなど沢山咲いていた。松手山頂を過ぎた辺りから右膝が痛くなり始め、鉄塔を過ぎると痛さが増し歩行速度が極端に下がる。薄暗くなり始めたのでヘ電を装着、自分とT島さんの明かりで何とか下山。予定より3時間30分遅れ、同行者に大変迷惑をかけた反省しきりの沢登りだった。

Y本記

★8月10日(土) 西横川(中央アルプス)・例会山行

CL : S谷 T井 T島

晴れ

官の台 6:00 しらび平 7:15 入渓 7:20 二股 7:40 30m 滝 8:50 廃道 12:00 千畳敷 14:00

『やまふみ』9月号

鈴ヶ沢に続き下りは楽をしたいということで、駒ヶ岳のロープウェイを使う場所にした。中央アルプスは石の状態が悪いと聞いていたが、自分もそれを今回経験するとは思わなかった。下りのロープウェイ待ち 2 時間以上と聞いていたので、早めに集まり朝6時に官の台到着。臨時バスが出ており、待たずにしらび平へ。ロープウェイ待ちの人達の横で、沢登りの準備をし、100mほど道路を歩いて入渓する。直ぐに堰堤が2つ現れるが左側から簡単に越えられる。暫く歩くと二股になり左の西横川に入る。3~5m程の登れる滝が、どんどん出てくる。今日は快晴のため濡れながらとても気持ちよく登れる。



次は30mの大滝、ここは安全のためロープを出し左側を登る。



西横川はトイ状の滝が多いが、水量が多くなければどれも簡単に登れる。途中に雪渓が残っていたため、天気が悪いとかなり寒い思いをするだろう。中央アルプス西横川は、3~5m 程度の登れる滝が連続し、全体的には難しくない沢

しかし、岩が剥がれやすく過去にも岩が剥がれて滑落という報告があり、岩が剥がれやすいことに注意しなければと最初は思っていたのだが、途中から注意を怠ってしまった。

全体の3/4程度登ったところで3mほどの滝があり、先行の T 島さんは滝の本流を登ろうとしたが、上部の状態が悪いと判断し、右へトラバースし問題なく登る。続いて T 井さんも同じルートでクリア。

私は、再度本流が登れないかとトライ。取り付いてみると、上部にしっかりしたホールドが見つかりそこを頼りに登ろうとしたところ、右手の岩が突然剥がれ、180度 身体が回転し滝を背中にした状態で落下。地面についた時に子指を痛めてしまった。改めて岩を見ると、どこの岩も亀裂が入っており、岩がはがれ易いのが見て取れた。

沢登りは危険が多いと認識していたつもりが、慣れによって自分の行動に慎重さがかけていたと今回は大いに反省させられた。

その後も気をつけて登り、廃道に 12:00 に着。そこで着替えて、千畳敷に 14:00 に着いたが、予想通りロープウェイは2時間待ち。のんびりとラーメンを食べ時間をすごし、官の台に 17 時着、いつものようにお風呂に入り、解散となりました。

by S 谷



★8月14日（水）駒ヶ岳（海谷）（例会山行）

U 木

登山口 7:28-駒ヶ岳ロッジ 7:48-鉄梯子 8:34-木製梯子 9:06-ブナの泉 10:19-山頂 10:55
-山頂発 11:05-ブナの泉 11:36-木製梯子 12:49-鉄製梯子 13:14-駒ヶ岳ロッジ 13:49-登山口 14:03

駒ヶ岳 から鬼ヶ面山と 鋸岳への縦走は厳しいと昔から聞いていて一度挑戦したかったがすでに遅し。残念ながら出来そうもないのでせめて駒ヶ岳でも登るかと思うのが今回の山行の動機なり。

駐車場に近づくと駒ヶ岳がテーブルマウンテンのように頂上がながく平らに見える。7時に海谷三峽パークに到着。車が4台ほど駐車してあったが登山客ではないようだ。登山口から砂利道を20分歩いて駒ヶ岳ロッジに着く。営業はしていないように見えた。お盆の暑い99日差しを予測して熱中症にならないように水分補給とゆっくり歩くことを心がける。10分ほどで小沢に出る。



ここまではきれいに下草の刈り取りがおこなわれていたが急に終わり、ここからまったく刈り取りがおこなわれていず登山道に草がおおわれている。ちょっと意欲をそこなわれたが気持ちを奮いたたせて進む。次に来る登山者のために貢献しておこうと、杖で草をたたき手で折ったりして進む。沢に会いすこし沢の中を登る。また藪漕ぎをして沢にでてそれを横断する。ここからすぐに鉄製の梯子があり10mくらいある。ここを登ると急に藪がなくなりつぎつぎにトラロープが続く。顕著に沢の音がして今度は木製梯子。鉄製にくらべて登りにくい。



しばらく進むとほしいに傾斜がゆるくなるが突然道が消えた。大きな木が最近倒れて完全に登山道を隠してしまった。木の上を歩くのは難しいので他を探すと、幸いそばに小さな沢があるのでいったんくんだりそこで思いっきり滑ってし



まった。気をとりのおして沢を少しのぼると赤テープがみえてまた登山道に戻る。ここは回り込むのが分かりにくいので、下るとき迷わないようにテープを3本ほどつけておいた。しばらくしてブナの泉とおもわれる水たまりにでる。汚くてとても飲めそうもない。尾根に出ると非常にゆったりした登山道になりさいごに根知方面との分岐に会う。頂上から雨飾山が良く見える。まだ少し残雪があるのでびっくりした。目の前の双耳峰は残念ながら名前が不明。

下りで2回迷ってしまった。トラロープがいったん途絶えたのでそのまま下るとだんだん道が陰くなったのでおかしいと思い登りなおす。原因は大きな岩の裏にロープがあり上から見る

と隠れていてそのまま進んでしまった。つぎは沢のところ。藪漕ぎのところを出て沢に出て下るが、朝の記憶ではそんなに沢は登らない気がして2度ほど登ったり下ったりして、沢から藪漕ぎの道へはいるところがどうもみんな藪の入口にみえて分からない。しかし幸い登る途中で折った草が少しみえたのでそこをのぼると、先に赤テープが見えたのでほっとした。沢の入口に自分のテープをつけておけばと反省した。やれやれだ。この場合GPSはあまりに距離が小さく役にたたない。榊山でさんざ藪道の入口がわからず迷ったことを思い出した。だんだん日差しが強くなり歩きにくかったがなんとか登山口に着くと車が1台止まっていた。結局誰にも会わなかった。どうもあまり来ないところらしい。このくそ暑いお盆のときに登る山ではないのか。



★8月16日(金)～17日(土) 蝶ヶ岳・常念岳(個人山行)

T井、非会員1名

1日目:晴れ

7:30 三股駐車場～12:50 蝶ヶ岳ヒュッテ

今年は沢ばかり行ってまだ夏山に登っていなかった。一つくらい縦走もしくちやいけないうことと、一番下の息子(中1)を誘って蝶・常念へ行ってきた。7月に例会山行を計画したけど天気が悪くて中止にしたルートだ。

今回はどさくさにまぎれて、息子のザックにシュラフ、テント、コッヘル類、バーナー類、食料を詰め込んだので俺のザックはスカスカでとても楽ちんだった。三股の駐車場はかなり手前の林道から路駐も多くて満杯だったけど、登山口に一番近いところに軽が止められるスペースを発見。ラッキー♪

今日は天気も良くて絶好の登山日和だ。途中、蚊が多くてうっとうしかったけど、まだ花も結構残っていて楽しく登ることが出来た。



早く着いたのでテントもガラガラだった。テントを張ってビールを買いに行ったら、2時半からコンサートが開かれるという話を聞いた。ヒュッテの食堂でやるらしい。せっかくなので見ることにした。蝶ヶ岳ズというバンドで年に一度だけ蝶ヶ岳で結成され、今年で5回目だといっていた。一応プロのミュージシャンの集まりで過去4回はヘリで登頂して、今年初めて歩いて登ったそうだ。曲はオリジナルの楽曲で、忌野清志郎と長淵剛を足して2で割ったような感じの曲が多かった。思いがけず山の上で生演奏が聞けて得した気分だ。

息子が山に行ってもいい条件としてうまいものを食わす、と

というのがあった。昼飯は鳥そぼろの焼ビーフン(写真)。晩飯はマッシュルームのアヒージョとソーセージ・ガルバンゾビーズのトマトパスタを作った。晩飯を作っていると超～かわいい女子大生のお姉さん二人に声を掛けられた。蝶ヶ岳ヒュッテにはボランティア診療所があって、そのスタッフさんで登山者の体調をみて回っているという。

そういえば自分が働いている病院が蝶ヶ岳診療所の急患指定病院だった。ネットワークがちゃんとつながっているか気になっていたのでも聞いてみたら、ちゃんと交信出来るそうで安心した。彼女たちも今日、登ってきたばかりで「イオンの前にある病院ですよ。さっき通ってきましたよ。」なんて話とかで盛り上がっちゃいました。気が付けばテントはかなり埋まっていた。



2日目:晴れ

5:50 蝶ヶ岳ヒュッテ～6:25 蝶ヶ岳～10:40 常念岳～11:40 前常念～15:55 三股駐車場

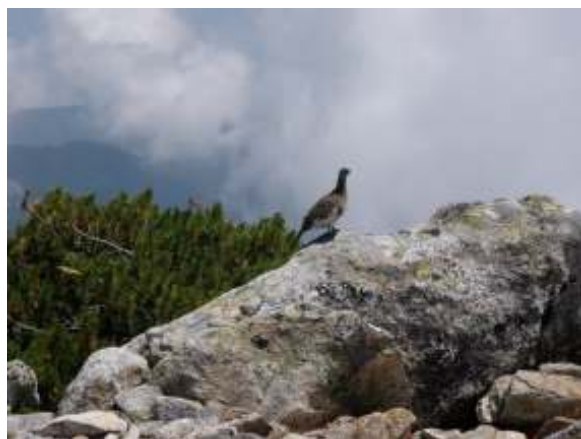
3時半に起きて空を見たら星がきれいだった。朝飯を食べてご来光を見るために山頂に行った。あいにく東の角は雲が厚くて日の出は見られなかったけど、槍・穂高が雲の上に浮かんでいてきれいだった。テントを撤収し

『やまふみ』9月号

て小屋で水を汲んで出発したが、ここで痛恨のミスをする。常念小屋で水を汲むつもりで少な目にしたけど、よく考えたら常念小屋は通らない。

常念岳まで思ったよりアップダウンがあって日も照って暑くて水をたくさん飲んでしまった。景色も最高で楽しい稜線歩きだったのに常念岳についた時点で、二人であと1.2リットルしか水がない。一度小屋まで下って水を汲もうかと考えたが、2時間のロスが痛い。コースタイムで三股までまだ5時間ある。下りなので水をセーブしながら行けばなんとかなると思え、そのまま前常念へ向かった。ここからは岩稜歩きで日差しが暑い。景色は良い、コースも面白いんだけど喉が渇く。なんとか樹林帯に入って少し楽になったと思ったら急な下り坂の連続で、息子も疲れが足に来ている。2時には水が無くなった。なるべく喉が乾かないようにゆっくりと下った。そしてやっと登山口に到着。行き倒れにならなくて良かった。教訓、水の計画はしっかり立てましょう。

T井 記



★ 8月15(木)～18日(日) 北ア／読売新道(個人山行)

S木

- 15日 高瀬ダム 7:50-烏帽子小屋 12:40
- 16日 烏帽子テン場 6:05-野口五郎岳 8:55~9:25-水晶小屋 12:50 (午後岩苔分岐まで散策)
- 17日 水晶小屋 5:00-水晶岳南峰 5:30 -温泉沢の頭 6:30- 赤牛岳 8:40~9:20-6/8 標 10:30
-4/8 標 11:10-奥黒部ヒュッテ 13:35
- 18日 奥黒部テン場 7:00 - 平の渡し着 8:35 渡船 10:20~30 - 黒部ダム 到着 13:50

お盆に2日だけなら休みをとれたが、今年は茶臼小屋の手伝いも呼ばれていないことだし、思い切って予てから行って見たかった読売新道を歩くことにした。

1日目、七倉の駐車場はほぼ満杯だが、意外に入山する人は少ない。お盆も後半となり今から入山する人は少ないらしい。しかし高瀬ダムへのタクシーを一人で乗るのは嫌なのでしばらく相乗りを待つことに。30分ほど待ってようやく駅から乗ってきた女の子2人組に同乗できた。なんとかタクシー代 2100 円の 1/3 となる。ブナ立尾根はひたすら忍耐。下山者は多いけど登る人には殆ど会わず、ペースが乱されず楽だった。快晴だった空も稜線に着くころには雲がでて、テントを張ったところで雨が。周りの山も見えているのに随分早い。烏帽子ピストンは何度か行ってるし、まいっか。テントでくつろぐ。ラジオだと下界は相当大荒れらしい。諏訪湖の花火は豪雨で中止となったそう。

2日目。当初は三俣のテン場まで行くつもりだったが、行く前に散々皆に読売新道大変だよと脅され、ヒザの調子も良くないので、翌日のことを考え水晶小屋泊にすることにした。ということで、今日の行程は楽チン。のんびりしてたらすっかり周りのテントはいなくなっていた。三ツ岳～野口五郎～真砂岳～展望の良いコースが続く。明日行く水晶～赤牛が横にどーんと横たわっている。水晶小屋にちょっと早いけど宿泊の手続きを。営業小屋

に泊まるの何年ぶりかな。テン泊ばかりしていると小屋泊まりは凄く抵抗が。それもお盆時に。まあ非常時？だ、仕方ない。でも実は新しくなった小屋の中を見てみたかった。というのも、昔雲の平で働いていた時に水晶の小屋閉めの手伝いに来たりした。あの物置みたいな狭い小屋がどんな大きさになったのか…とても同じ敷地とは思えない広さがありました。「今日は1枚の布団に2人ですが、余裕があれば広がって結構です」と。実際、なぜか私の横には誰も配置されず、一人で悠々と寝られた。ラッキー。一番心配だったのは水。水晶では天水も宿泊者のみ、またコース別に制限をされていて、読売新道でも1ℓだけ。これでは自炊用だけで終わってしまう。仕方ないので明日の行動用は500cc=300円のミネラルウォーターを1ℓ購入。烏帽子から担いだ残りが約500cc。もう少し多く買っておくんだったと思うが、まあ下から持ってきたジュースもあるし、下りだしなんとかもつかな…。読売は結構いるみたいで、昨日の雨に濡れたテントを干す人も。私も便乗。ごめんなさい。

3日目、予想どおり早出の人たちに起こされる。まあ私も早出に越したことはないから起きる。外に出るとまだ暗いがどうやら高曇り。日の出は期待できないが、展望はきくので良しとしよう。水晶の南峰北峰と過ぎ、いよいよ本番。ガラ場が多く、岩が結構浮いていると聞いたので慎重に。幾つかピークを過ぎたり巻いたり温泉沢の分岐を過ぎる。北側に巻くとお花畑だったりして和む。テン場に良いところもチェックし、大きな登り返しもないまま、赤牛山頂へ。今朝奥黒部ヒュッ



テを出てきた人がいて驚いた。今朝の雲も消えすっきり快晴、360度北アほぼ全部見えるなり。もったいないからのんびりしていると次々人が来たので、ぼちぼち出発。直下は崩壊地を下るので、ちょっとビクビク。そこを過ぎてもしばらく急な斜面。常に目の前に黒部湖が見え、烏帽子も近くなる。振り返ると赤牛がど〜んと聳えている。樹林帯に入ると一気に蒸し暑くなった。下るほど喉が渇くから、多めに残してあったのは正解でした。奥黒部HIには意外に早く着いて、こんなだったら三俣からでも良かったかなー。

4日目、10:20の渡船なので遅めの出発。それでも乗り場では1時間半は待ち、山頂で会った人たちと話を楽しんだ。登山中に船に乗ることって初めてでちょっと嬉しい。平からはひたすら湖岸を歩くが、前に歩いた時はアップダウンがきつかった記憶があるが、今回はそうでもない。奥黒部〜渡しの道も、はしご段のきつい道と覚悟していたせいか思ったほどでもなかったし、多分、まだ体力に余力があったからだ。水晶泊まりで楽をしたし、膝の為セーブして歩いてきたしねえ。渡船で大勢いたけど、最終的に私が一番で黒部ダムに着いちゃった。ダムから、赤牛をパンヤリ。観光客の中に入るのはとても恥ずかしい。トロリーバスはすぐに乗れたが、隣の子供が嫌そうだった、汗臭くてごめんね。



扇沢から七倉へは、大町の友人に迎えにきてもらって車回収OK！新装の七倉山荘の湯につかった。

S木記

以上

編集後記

信州の山 北信・東信209山 宮坂著 が信毎の新著紹介であることをシニアの仲間に教わり早速購入した。すべて手書きの地図 ①著者の山に対する感情がそのまま出ているのがほほえましい。②手書きなので地理院の地図でないので分かりにくい欠点がある。③登る時間が短い山で伊部さんにない山がかなりあり大変助かる。里山もだいたいぼったので未踏が少なくなってきたのであらたな目標ができた。④未踏の藪山も結構あるが短時間なので冬にのぼればだいたい稼げそうだ。

ちょうど同じ場所に 中島さんの 信州山歩き地図が販売されていたので同時に購入する。53 山と少ないが県山岳救助隊長だった彼の独特の手書き地図はネットでおなじみだったがネットでは詳細がボケていてわかりにくいですがこれははっきりして分かる。独特の手書きで読み物みたいに読んでいる。過去をふりかえるながら読んでいて楽しい。どちらも暇なときにちらちらみている。シニア向きかな。バリを退学した自分には適している。伊部さんに続く里山の好著であろう。自分にとってはありがたいがバリ好きの会員には物足りないかも。

ノハラ

最近仕事関係の勉強会で体に絵を描く講習に参加している。サインペンで体の表面から骨や筋肉の位置や形なんかを描き込んでいくのですが、勉強にはなるのだが講習会後には手や脚がエライ事になっている…。一度その帰りに温泉に行った、周りの居合わせた人に変な眼で見られるかなあとも思ったけど案外スルーされた。自分で思うほど周りは気にしてないものなんでしょうか？いやでもちょっと異様ですよ？あんまり見ちゃいけないとでも思われてスルーされたたのでしょうか？

ノカタカナ

8月に入って2週連続で佐久香坂のクライミングに参加した。岩や沢をやらなくなって以来そんなことありえないことだ。それも夏真っ盛りな時期に。夏山での人の多さにうんざりしていたので、意外にも静かで涼しい香坂の岩場はほっとする空間でありました。おまけに我が家から近い！いつも長野の行き帰りがしんどいだけに、皆と別れて10分で帰宅って、凄く嬉しい！！ …でも、私に登れる岩が殆どないのが悲しい。。。

ノとっこ



イワギキョウ
& ミヤマウイキョウ